

ご意見をお寄せください

考えてみませんか 20年後の札幌と 路面電車



フランス・ストラスブール

80年以上もの間、市民の足とまちの発展を支えてきた路面電車。

今、人や環境に優しいという観点からその良さが見直され、札幌のまちづくりへの新たな活用が期待されています。

皆さんもこれからの札幌のまちづくりについて一緒に考えてみませんか。



札幌市



フランス・モンペリエ



フランス・リヨン

この特集に関するお問い合わせは都市交通課 ☎211-2492



札幌市長 う え だ ふ み お 上田 文雄

20年後の札幌のまち。皆さんはどういうまちを想像しますか？

そのころには高齢化がさらに進むため、高齢者に優しいまちづくりがより一層求められます。また、人口が減り、経済活動が停滞する恐れがあるのです。

そこで今、未来の札幌に必要なものの一つとして、高齢者にも使いやすく、まちの活性化ももたらす「路面電車の延伸を含めた活用」を提案しています。これからの札幌のまちづくりにとって大切な事柄ですので、ぜひ、今回の特集を読み、皆さんの声を聞かせてください。

これまでの経緯

◎平成17年2月
存続を決定
市民議論を経て、存続が決定。

◎平成18年9月
活用策の提言を受け取る
有識者などからなる会議で、市は「延伸する必要がある」との提言を受け、その中で路面電車を「まちや市民を元気にする道具」として活用する必要性が示された。

◎平成19年7月
路面電車活用の検討フレームをまとめる
検討項目をまとめ、21年度までに市の方針を策定することとした。

◎平成22年3月
路面電車活用方針を策定
路線の延伸がまちづくりに有効と判断。

今年度の動き

◎6月～7月
全区でパネル展を実施

◎7月
本誌7月号で特集記事を掲載

◎8月
都心まちづくりフォーラムを開催

◎9月
札幌駅地下街でパネル展を実施

◎10月
市民会議を開催

今後

◎11月 大規模な市民会議を開催

これまでに寄せられた意見、市民会議でのまとめ、関係機関との協議結果などを踏まえ、「延伸の実施」や「具体的な延伸ルート」について判断します。

まちの未来と路面電車が抱える課題

1 路面電車の 厳しい経営状況

路面電車は1日2万人・年間730万人が利用している重要な公共交通機関ですが、車両や施設の老朽化が進み、平成35年までに更新費用約58億円が必要です。しかしながら、利用者の減少が続き、平成21年度の経常収支は約7,000万円の赤字となっており、現在の事業収入のみでは施設更新費用の負担が難しい状況です。

2 これからの札幌は人口減少・超高齢社会へ

人口減少によるまちの活力低下

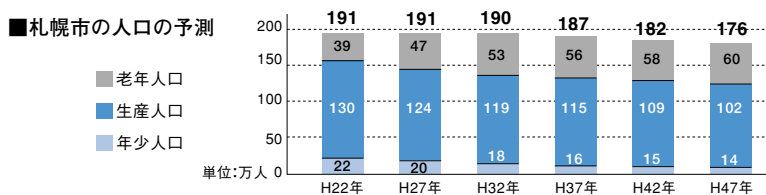
市の人口は5年後から減少を始め、札幌全体の経済活動などの低下が予測され、その中でも特に都心部の活力低下が懸念されます。都心部の衰退は、「まちの顔」、ひいては札幌全体の魅力を低下させ、観光客の減少につながる恐れもあります。

超高齢社会の到来

5年後には4人に1人が高齢者となる「超高齢社会」が到来し、自家用車を利用しない人が増えるなど、公共交通機関の必要性がさらに高まります。そのため、高齢者も安全に、安心して利用できる公共交通機関の維持・充実が必要となっています。

環境負荷の増大

郊外に住んでいた人が都心部に移り住む「都心回帰」が進み、将来的には、市全体の人口は減少するものの、都心部の人口と交通量は増加すると予想されています。このままでは都心部の自動車利用が増え、二酸化炭素の増加による環境への悪影響も懸念されます。



25年後には
人口が1割減り、
3人に1人が
高齢者に!

市からの 提案

上記①②の課題に対応する手段の一つとして、
人や環境に優しく、まちの活性化に貢献できる路面電車の活用が有効と考え、
「路線を延伸し、路面電車を活用したまちづくりを進める」
必要があると考えています。

路面電車を活用したまちづくり

魅力とにぎわいのあふれるまち

新たに導入するデザイン性に優れた車両や電停が、まちの魅力的な景観を作り出すほか、利便性の向上などにより沿線の経済活動の活性化を促します。路面電車の活用がまちに新たな魅力をもたらし、観光客や市民の集客などにより、多くのにぎわいを生み出します。

海外では、歩行者と公共交通機関の専用道路を整備し、にぎわいを創出

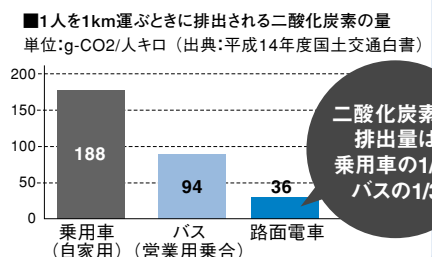
高齢者に優しいまち

路面電車は階段を使わずに地上から直接乗り降りでき、行き先や場所が分かりやすいため、高齢者や観光客も安心してまちを移動できるようになります。



環境に優しいまち

利便性の高い路面電車などにより都心部の公共交通機関を充実させ、自家用車からの転換を促すことで、自家用車に頼り過ぎない、環境に優しいまちとなります。



経営の収支改善

延伸と合わせて「経営の効率化による経費の削減」「乗車料収入などの増加」を図ること、将来的には黒字化も見通せます。



皆さんから多くの声が寄せられています

本誌7月号やパネル展で、路面電車を活用したまちづくりに関する市の考え方や、延伸の検討地域などを紹介したところ、たくさんのご意見をいただきました。ここでは、これまでに寄せられた声に対する市の考え方をお伝えします。

延伸の検討地域

Q. 延伸の検討地域は、どのようにして決めたのですか？

A. 延伸した場合の将来の人の動き、観光施設や商業施設の立地などの地域特性、再開発を含むまちづくりの状況などを総合的に検証し、「都心」「創成川以东」「桑園」を延伸の検討地域としました。

Q. 路線を延伸しても、赤字が解消されず、借金が増えるのでは？

A. 延伸と合わせて「経営の効率化による10~15%の経費削減」「乗車料収入などの収入の10~15%増加」を図ることで、建設に掛かった費用の負担も軽減されるおおよそ10年後には、現状の路線も含めて黒字化が見通せます。

延伸による乗客数増加に伴う収入増

+

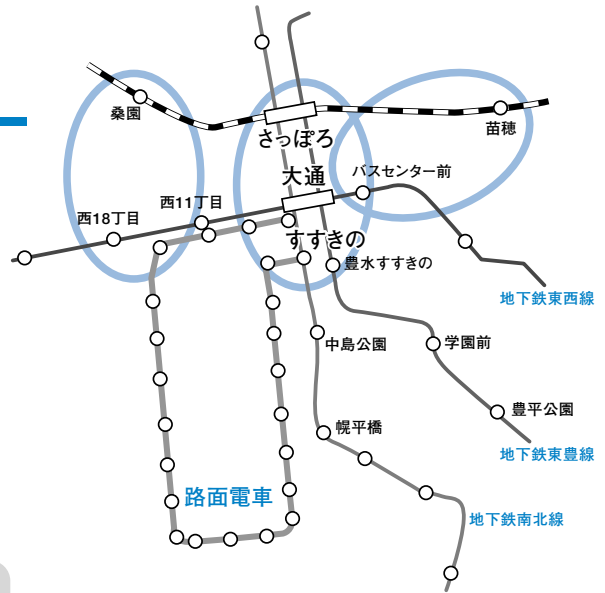
経費の10~15%削減

+

乗車料収入などの10~15%増加

↓

現状の路線を含めて将来的に黒字化が見通せる



Q. 延伸の費用はどれくらい掛かるのですか？

A. 延伸には軌道の敷設のほか、車両や電停の整備が必要であり、一つの地域ごとに総事業費が約50億円掛かりますが、国の補助制度を活用することで、札幌市の建設費にかかわる負担は1/3程度になります。

■概算事業費(単位:億円)

項目	都心地域	創成川以东地域	桑園地域
事業費合計	56	50	48
国庫補助	18	16	16
事業者負担	20	18	16
札幌市負担	18	16	16

都心への延伸

Q. 都心部に延伸すると、都心部ばかりが便利になりませんか？

A. 今後の人口減少により、札幌の「まちの顔」である都心部の魅力低下が懸念されます。延伸により利便性を向上させ、都心部が多くの人でにぎわい、活性化することが、札幌のまち全体の活性化につながっていくと考えています。

Q. 都心部への延伸で、渋滞が悪化するのでは？

A. 都心部では、今以上に道路を広くすることが難しいことに加え、「都心回帰」などによる自動車交通量の増加により、渋滞が悪化する可能性があります。そのため、都心部の公共交通機関を充実させることで自家用車からの転換を図り、必要以上に自家用車に頼らない都心のまちづくりを目指します。

路面電車の効果

Q. 車両は新しくなるのですか？

A. 現在使用している車両は50年以上経過しているものも多く、車両の更新は急務です。車両導入の際にはデザインも考慮した上で、段差の少ない「低床車両」とするため、高齢者を含む誰もが利用しやすくなります。



Q. 路面電車を新たに導入してまちが活性化した都市はあるのですか？

A. 富山市では、平成18年にJR線を廃止した代わりに低床車両を導入し、運行本数を増やすなど公共交通の利便性を向上させました。その結果、今まで外出しなかった人が新たに外出することなどにより、利用者数は2.2倍に増え、まちに出掛ける人が多くなりました。





路面電車を活用したまちづくりを考える 市民議論が始まっています

10月16日(土)・17日(日)に 市民会議を開催しました

無作為抽出した市民2,000人から参加者を募集し、その中から居住区・世代などを考慮して決定した26人の市民が、「路面電車の課題と可能性」をテーマに2日間の議論を行いました。

- 1 5～6人のグループに分かれ、「路面電車とのかかわり」や「路面電車の延伸は札幌のまちを元気にするのか」「路面電車の課題や解決策」などについて議論。
- 2 実際に路面電車に乗車し、車窓からの風景も見ながら意見交換を実施。
- 3 議論の結果をグループごとに発表。市民の目線や利用者の視点からの意見が数多く出ました。



こんな意見が

「路面電車の延伸にまちを元気にする可能性を感じる」という意見が多かった一方で、課題も出ました。

- すすきのからJR札幌駅までをつなぐと、商業地が一体化するなど都心部の回遊性が高まるのでは
- 利用者を増やすために、観光スポットや商業・公共施設をつなぐような路線選びを
- ループ化することに加え、ほかの公共交通機関と接続し、利便性を高めることが必要
- 利用者の増加など、採算性の向上へ向けた努力が必要
- 延伸する前に、現在の路線で低床車両を導入するなどして、効果を確認するべきでは
- 都心は地下鉄やバスなどが充実しているので、都心よりも桑園、創成川以東地域への延伸を優先すべきでは

100人規模の市民会議を開催します

無作為抽出した市民5,000人に会議の案内文を送付し、希望者の中から決定した100人による、大規模な市民会議を行います。10月に開催した市民会議の意見や、観光客・商業者などの視点を踏まえ、路面電車の課題と可能性について議論します。また、会議の1日目には、市民や団体の意見発表を聞く「オープンヒアリング」を行います。

- 日時**
- 11月28日(日) 午前10時～午後4時
 - ※オープンヒアリングは午後2時30分からを予定
 - 12月 5日(日) 午前10時～午後4時
 - 12月19日(日) 午後1時～4時

会場 STV北2条ビル(中央区北2西2) 6階会議室

会議は傍聴することができます。ただし、発言はできませんので、あらかじめご了承ください。

意見を発表する方を募集します

「オープンヒアリング」で路面電車に対する意見の発表を希望する方を10人程度募集します。発表時間は1人5分です。



申込封書、ファクス、Eメール。住所、氏名、年齢、電話番号、「発表希望」と明記し、発表内容を400字程度にまとめ、11月15日(月)(必着)までに都市交通課(〒060-8611中央区北1西2市役所内、ファクス218-5114、Eメールsogokotsu1@city.sapporo.jp)へ。抽選。

意見募集

はがき、ファクス、Eメールで受け付けます。住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、都市交通課(上記)へ

ご意見をお寄せください

札幌のまちづくりと路面電車の未来について、皆様のご意見をお寄せください。いただいたご意見は、100人規模の市民会議や今後の市の検討の参考にさせていただきます。